

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立北野保育園
-----	------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色(混色、色作りなど)

<テーマの設定理由>

昨年度、身近な色探しや制作活動を通して色に親しんできた。その中で子どもたちから「紫作りたいから赤と青だね」「〇〇ちゃんの色、ちょっと違うね」「どうやって作ったの？」など、色の変化や違いに興味を示す姿が見られた。そこで今年度は、色を混ぜたり作ったりする活動を通して、子ども自身が予想し、試し、発見する経験を重ねられるようにしたいと考えた。

活動の中では、「なぜ違う色になるのか」「どのくらい入れると変わるのか」といった問いをもとに試行錯誤を繰り返しながら、自分なりの色を見つけたり、友達と発見を伝え合ったりする姿を大切にしたい。色の変化への気づきや対話を通して、探究心や表現する力を育てていくことをねらいとした。

2. 活動スケジュール

【1 期】身近な色に気づき、色の名前やイメージを楽しむ。色が重なると混ざり、異なった色になることを発見し、楽しむ。

【2 期】色を混ぜるとどうなるか自分でやってみる。色の変化を楽しみ、友達と発見を共有する。

【3 期】混色から「自分だけの色」を作る楽しさを味わう。思いや イメージに合う色を考えたり選んだりしながら表現活動につなげる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・カラーフード(食紅)、絵の具、ペン、折り紙、セロファン、カラーポリ袋、空のカップ、スポイト、スプーン、筆、パレットなど
- ・一人ひとりが活動に取り組めるよう、十分な量を用意していく。
- ・年度後半には、色鉛筆入れを作り、色に対して興味が深まるような環境づくりも意識していった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・色遊びを通して、色が混ざることによって変化する様子に気づき、「なぜ色が変わるのか」「どの色を混ぜると好きな色になるのか」などの興味や疑問をもつ。
- ・自分なりに色の組み合わせや量を変えながら試し、「もっと赤を入れたらどうなるのかな」「少しだけ入れてみよう」「ピンクを作りたいけどどうしたらいいかな」などと予想と結果を確かめる。
- ・友達と作った色を見比べたり、「どうやって作ったの?」と方法を尋ねたりしながら、それぞれの発見を共有する。
- ・水や絵の具の流れ方、広がり方にも目を向け、色だけでなく素材や現象への関心も深めていく。
- ・色鉛筆や絵の具を使う活動の中で、「この色とこの色は似ている」「前に作った色みたい」など、色同士を比較したり分類したりしながら、自分のイメージに合う色を考えて選ぶ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

制作(絵の具の雨を降らせる)

絵の具を溶いた水をスポイトで角度のついた紙に垂らす。水の流れていく様子や、色が広がっていく様子、色が混ざる様子を観察、楽しむ。

- ・子どもたちは、スポイトで色水を垂らしながら、「ここに落としたらどうなるかな」「青の上に黄色を落としてみよう」と予想を立てて試していた。
- ・色が重なって新しい色になると、「緑になった!」「ねえ見て!面白い色になったよ」と驚きや発見を友達に伝える姿が見られた。また、「ねえ、この色何色かな?」「どうやってその色になったの?」と互いに尋ね合いながら、色の量や混ぜ方の違いに気づき始めていた。
- ・保育者は、「どの色を入れたのかな?」「ここに垂らしたらどうなるかな?」と問いかけながら、子ども自身が試したり考えたりできるように関わった。また、一人ずつの制作ではなく、数人ずつやクラス全体の活動としたため、自然と子ども同士のやりとりも増え、それぞれの発見を共有する中で、色への興味が深まっていた。

色鉛筆収納

塗り絵やお絵描きで「これ(キャラクター)の髪の毛と同じ色に塗りたいんだけど、何色かな?」「もう少し薄い紫だともっと可愛い」といった声が多く聞かれるようになった。もともとは、容器にすべての色が入っている形での収納だった。使いたい色は入っているが、なかなか見つからないといった姿も見られたため、収納方法を変える。

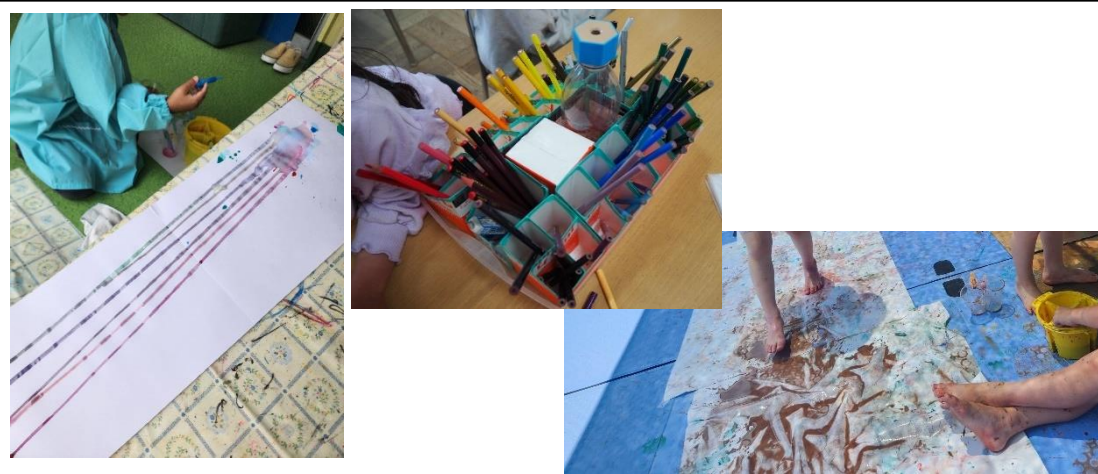
・収納方法を変えると、「見やすくていいね!」「この色初めて見た」という声が聞かれ、「鉛筆も入れたら?」「消しゴムもほしいね」「鉛筆削りも」と子どもたちの声で収納の形が変わっていった。

・「これも青?」「これは水色だよ」「これは何色っていうの?」「この色とこの色は似ているね」「これは前に作った色みたい」といった色に関心を寄せ、友達同士で教え合ったり発見を共有したりする姿が見られた。

・「こっちの方が少し濃いね」「べにいろっていうんだね」と色を比較したり分類したりする姿も見られた。友達同士で色の違いを話し合う中で、同じ仲間のあることや微妙な違いに気付く、自分の描きたいイメージに合う色を選ぼうとする姿につながっていった。

・今まであまり塗り絵やお絵描きに興味を示さなかった子も、「この色、〇〇の色みたい!」「この色使ってみよう」と意欲的に絵描きなどの遊びを選択する姿が増えた。

・折り紙や工作遊びでも、「薄い黄色がほしい」「葉っぱを作りたいけど、緑と黄緑どっちがいいかな?」と、色の違いや濃淡について意識したりこだわったりする姿が見られた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

昨年と比べ、色が混ざる、色ができるといったことに興味を示す子が多かった。活動を経て、興味・関心が深まっているのを感じた。また、色鉛筆の収納方法を変えると、色の名前、同系色の中の違いに興味を示す子が増え、お絵描きや塗り絵などの遊びが広がっていった。活動だけでなく、環境づくりからも子どもたちの興味・関心へアプローチすることができ、子どもの発言や姿から活動を深めていく、展開していくことの大切さを改めて感じる事ができた。